

「自治体・公共Week 2025」に出展

「車両貸出業務を自動化する鍵BOX型管理システム」紹介

智頭石油（鳥取市、田中康崇社長）は、7月2日～4日に東京ビッグサイトで開催された「自治体・公共Week 2025」に出展し、「車両貸出業務を自動化する鍵BOX型管理システム」を展示した。

このシステムは、車用車・公用車の稼働率を上げ、無駄なコストをカット、車両台数を削減できるというもの。全車の予約・利用状況が専用サイトでリアルタイムに確認できるので、車両を使う人はそれを見て予約を行う。車の鍵は鍵BOXに入っており、予約した人は社員証・職員証をカードリーダーにかざし、アルコール検知を行い、問題がなければ鍵が開く仕組みとなっている。

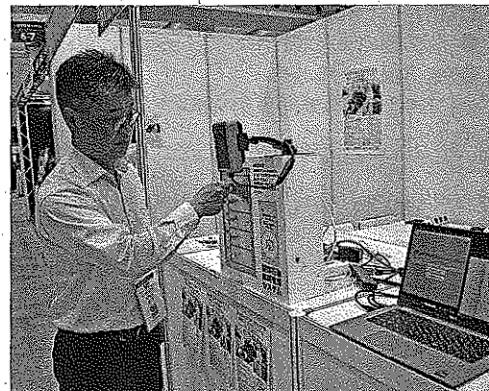
予約開始時刻を30分経過し、車が使われていないと自動的にキャンセルさせるので、次の予約を入れることができる。同システムは2019年に鳥取市役所で初めて導入され、その後、23年に鳥取県庁、24年、には倉吉市役所、高知県庁でも導入された。

導入前は、車両の予約をした人が使わない場合、キャンセルされないことが多く、車があるのに予約ができない、使えないといったことが見られたとのこと。そのため、実際の使用機会に必要な車両数よりも多い車両を確保していた。導入後は、車両の稼働率を把握できるため適正台数が分かり、台数を減らすことで経費を削減することができた。

車両を利用した後は、走行距離、給油量、使用目的など運行記録を使った人が入力し、電子化してデータで保管できる。さらに、車検、点検整備、オイル交換などのスケジュール管理も可能。

災害時に停電した場合は、車両管理システムへバッテリーを接続することで鍵を開放することができる。

ブースではアルコール検知器を使ったデモンストレーションも行われていた。



智頭石油のブース

デモンストレーションを行う田中社長